

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成21年 5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4070600764		
法人名	株式会社 エルダースービス		
事業所名	グループホーム 牧水の丘		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5番1号 (電話) 093 - 652 - 2020		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	福岡県北九州市紺屋町4 - 6北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】(平成21年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8 人, 非常勤2人, 常勤換算6.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	(水道光熱費) 20000円	
敷金	有(100000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1667円			

(4) 利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 82.7 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック、新日鉄八幡病院、藤崎歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大正時代、歌人若山牧水が滞在したといわれるゆかりの地(牧水の歌碑も建てられている)に、グループホーム「牧水の丘」は位置している。樹木に囲まれ、四季の移ろいを身近に感じることができる高台にあり、隣接して同法人のグループホーム「牧水の丘」がある。創立時の理念に基づき、「自分らしさ」「気づきと思いやり」に向けて創意工夫されたアセスメントツールと、日常生活の中での「気づき」を詳細に記録することにより、個別の介護計画への反映と、本人本位の支援の実践につなげている。英国式リフレクソロジー・フットバス・マッサージチェアの導入や、絵画鑑賞・コンサートなどへの外出、多彩なレクリエーションなど、日々の暮らしが心地よく楽しく過ごせるように工夫し支援している。法人として介護事業に多角的に取り組んでおり、法人内外の関係者との連携を活かした、サービスの質の向上への取り組みが充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、歯科の受診体制等の改善に取り組み、定期的な往診・口腔ケアの充実により、口腔からの感染防止や嚥下機能保持に向けて取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 定例会議やミーティングで評価の意義を説明している。職員から意見を聞き、集約しての自己評価作成となった。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、隣接する同法人のグループホーム「牧水の丘」と合同で、2カ月に1回定期開催している。家族・町内会長・地域代表・地域包括支援センター職員等の出席があり、避難訓練・健康管理・地域交流・安全パトロール等について、活発な意見交換を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 運営推進会議後に開かれる家族会において、意見や要望を聴き、議題として取り上げ、運営に反映させている。玄関ホールには意見箱も設置されている。「顧客満足とクレームの対応」についての研修を行っており、家族の意見や苦情を、聴こうとする姿勢や対応等について、真摯な取り組みが行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接する同法人の「牧水の丘」とともに町内会に加入し、地域との連携に努めている。市民センターでの発表会やお祭りに、入居者とともに参加している。散歩の途中にホームに立ち寄りの方や、防犯パトロールの来訪を受けるなど、日常生活の中での自然な交流がある。運営推進会議には、町内会長や近隣住民の参加があり、災害時の協力を依頼し、連携体制の整備に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人全体としての理念に基づき、同法人の4事業所(グループホーム)の協議により、グループホームとしての理念がつけられている。地域との交流に向けての支援を、事業の目的及び運営の方針としている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	目に付きやすい場所に理念を掲示し、毎朝のミーティングや定例会議にて唱和している。日々の業務には理念を意識した支援に努め、実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	隣接する同法人の「牧水の丘」とともに町内会に加入し、地域との連携に努めている。市民センターでの発表会やお祭りに、入居者とともに参加している。散歩の途中にホームに立ち寄りの方々や、防犯パトロールの来訪を受けるなど、日常生活の中での自然な交流がある。運営推進会議には、町内会長や近隣住民の参加があり、災害時の協力を依頼し、連携体制の整備に取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	定例会議やミーティングで評価の意義を説明し、職員から意見を聞き、集約して自己評価を行っている。運営推進会議にて外部評価の説明を行い、評価結果をファイルにして玄関ホールに掲示している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、隣接する同法人のグループホーム「牧水の丘」と合同で、2カ月に1回定期開催している。家族・町内会長・地域代表・地域包括支援センター職員等の出席があり、避難訓練・健康管理・地域交流・安全パトロール等、様々な議題について、活発な意見交換を行っている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村担当者との連携に努め、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受諾し、入居者家族や運営推進委員への案内を行っている。介護相談員の定期的な派遣を依頼している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在活用している方はいないが、日常生活自立支援事業に関するセミナーや研修に参加し、伝達研修を行い、必要な時に活用できるように取り組んでいる。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月1回、生活状況・健康状態・金銭管理等について、担当職員の手書きによる報告を行っている。また状況の変化があった場合には速やかに報告を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議後に開かれる家族会において、意見や要望を聴き、議題として取り上げ、解決へ向けて取り組んでいる。玄関ホールには意見箱も設置されている。家族が意見や苦情を言いやすい関係づくりと真摯な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	長期勤務している職員が多数在籍している。入居者一人ひとりの、詳細なケアの基本方針を立てており、止むを得ず職員の交代があった場合にも、ケア内容に変わりがないように支援している。新規の職員と入居者の馴染みの関係ができるまで、ベテラン職員がフォローしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢・性別などによる排除は行なっていない。意欲や優しさを重視し、採用後は定期的にヒアリングを行い、職員の向学心や、業務に対する意見や提案を掌握するように努めている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	身体拘束や高齢者虐待についての研修を行い、啓発活動に取り組んでいる。日々の暮らしの中でも、常に人権を意識し、配慮したケアに努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員の経験や能力に応じた研修計画を立案し、2カ月に一回の法人での研修会、その他の月には内部研修が行われている。研修資料はファイル化されて、職員への伝達に活かされている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人の4か所のグループホームと、定期的開催している勉強会や相互訪問を通して、交流や情報交換を行なっている。また戸畑区・八幡東区の研修・勉強会を機に、法人外のグループホームとも、相互訪問・情報交換を行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	サービス開始前に自宅や入院先を訪問し、本人・家族の状況や希望により、見学や体験入居など、本人が安心してサービスが利用できるような柔軟に支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で会話の機会を大切にし、戦前の出来事やことわざ、調理方法など、教えてもらう事は多い。お互いに「ありがとう」と伝える関係が築かれている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	コミュニケーションを大切にし傾聴に努め、また日々の表情や行動から、思いや意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の希望を大切にし、医師・看護師の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。事業所独自の詳細なアセスメント様式を活用し、個別の詳細な介護計画となっている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月のモニタリングとケアカンファレンス、3ヶ月に1回の見直しが行なわれている。毎日の記録についても、介護計画の実施状況がわかりやすいように工夫している。状況の変化があった場合は、直ちに変更を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療連携体制を活かして、適切な受診を柔軟に支援している。希望により家族の宿泊も可能である。買い物や外食の希望にも柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	月に2回の往診、週1回の看護師の訪問がある。入居者・家族の希望を大切にし、適切な医療が受けられるように柔軟に支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合における対応に関わる指針と、看取りに関する指針を作成し、入居時に説明を行っている。家族やかかりつけ医との話し合いを充分に行いながら、関係者で方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報に関する基本規則を作成し、プライバシーの保護の徹底に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の希望を優先しながら、心身の状況に配慮した柔軟な支援を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	(野菜屋さん・魚屋さん)より新鮮な食材を配達してもらい、入居者のできる範囲で、調理準備や片付けに参加している。嗜好の把握に努め、おやつや飲み物も含めて、配慮されたメニューとなっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3、4回の入浴を基本としているが、入浴したい日、希望する時間など、柔軟な対応を行っている。入浴を拒否する方にも、意思を尊重しながら、タイミングや声かけの工夫を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの好みや能力に応じて、掃除や食材の準備・後片付け、洗濯物たたみなどを職員とともにやっている。多彩なレクリエーションや外出、リフレクソロジーなど、楽しみごとや気晴らしに繋がる、様々な取り組みを行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩や買い物、ドライブを行い、その他の方も、見晴らしのよい、日当たりのよいウッド・デッキで日光浴・外気欲をされている。車椅子の方も屋外の散歩の支援が行なわれている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の自由な暮らしを支援するためにも、日中鍵は掛けていない。また居室に鍵は設置されていない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の防災訓練を行っている。また応急手当や緊急時の対応、AED使用方法などの訓練や研修を、定期的に行っている。隣接する同法人のグループホームとの連携体制や、近隣住民との協力・連絡体制を築いている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	一人ひとりの栄養摂取量や水分量を詳細に記録し、情報を共有している。状態や嗜好にも柔軟に対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	眺めの良いリビングは日あたりもよく、調理の音や匂いにより生活感を感じ、またアロマオイルを利用した際には、落ち着いた癒しのある空間となっている。ソファの配置や、入居者や職員の手作りによる作品が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、一人ひとりの入居前の暮らしぶりが想像できるような個性的なレイアウトとなっている。自宅より、家具・お気に入りの小物・仏壇などが持ち込まれ、似顔絵や家族の写真が飾られている。また床暖房により、快適な生活への配慮も行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			